令和6年度　大田区立雪谷小学校　自己評価　報告書

○ 本校の概要　　令和7年3月7日

児童数713人。学級数通常級22学級、特別支援級4学級。「児童の安心・安全」、「教育活動の選択と集中」を大切にしながら日々の教育活動に取り組んでいる。校内研究は国語科の「読むこと」で行い、自分の読みを深められる児童の育成を目指し、児童の問いと学習課題の整理に着目した授業づくりを推進する。学級・学年内、異年齢集団、通常級と特別支援級など、こどもたち同士の交流活動を充実させ、コミュニケーションと相互理解の基盤を養う。若手教員や経験の浅い教員の比率が高いので、OJT研修等を通して指導力の向上に努める。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果指標の段階	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「学習の中で、タブレット端末を使うことは、自分の勉強に役立っている。」と答えた児童の割合	4: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	4	・令和7年度新設の独自教科「おおたの未来づくり」の単元開発と年間指導計画作成を5・6年で行った。また、1～4年では、各教科等の指導を通して「おおたの未来づくり」の素地となる創造的な資質・能力を育むための年間指導計画を作成した。 ・「おおたの未来づくり」の新設に向けて、教科横断的な学習活動や、地域人材を活用した学習活動が充実してきた。 ・ICT機器を活用した個に応じた学びはさまざまな教科で達成できた。特に、体育の学習では有効であった。 ・ICT機器を活用することで、書くことに対して苦手と感じている児童も学習に参加する意欲が継続しやすく、互いの考えも共有しやすく有効である。 【回答児童数：236名】	A B C D	5 2 0 0	・自分の考えを言ってきてくれる児童が、わくわくスクールや普段のPTA活動で触れ合う中で感じ取れます。ありがとうございます。 ・タブレットなどのICT機器の活用は、子どもたちの学びの幅を広げるだけでなく、従来の学習法では力を発揮できなかった子が生き生きと輝くでしょうし、また、その逆もあると思います。ICTありきではなく、個に応じた学びへの心配りも引き続きお願いいたします。 ・2人1組になって、走り幅跳びの動画を撮影している様子を拝見しました。お互いに褒め合ったり、跳び方を改善し合ったりしていました。ICT機器のとてもよい活用だと感じました。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「友達と仲良く楽しく生活できている。」と答えた児童の割合	4: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	4	・3年総合的な学習の時間の「呑川探検隊」では、地域、スクールサポート雪小の方々に授業支援に入っていただいた。呑川に対する児童の理解が深まっただけでなく、自分たちの住む地域のよさに改めて気付くきっかけとなった。 ・今年度も全学年でイングリッシュカフェを実施した。授業以外でも英語でのコミュニケーションを図るよい機会となった。外国語の授業を全学級、担任がT1で行ったことで、児童の実態をより把握しながらALTと連携し、授業内容の工夫や改善を行うことができた。 ・生活指導部と代表委員会とが連携して自分たちの生活面における重点目標を児童が主体的に考えたことで、当事者意識が高まり、前向きに学校生活を送ることができた。 【回答児童数：236名】	A B C D	5 2 0 0	・地域との接点をこれからも増やしていって下さい。 ・個別目標5にも該当しますが、「国際都市を担う人柄」には、まず相手を受け入れる、インクルーシブルな意識をもったこどもの育成が必要だと思います。 ・「杉の子」の存在はとても大きいと思います。引き続き取り組み（交流）を期待しています。 ・「呑川探検隊」では、熱心に呑川の会の方のお話を聞き、メモを取っていました。雪谷のまちのよさに気付き、「大田の未来づくり」へ学習を進める一歩になったと思います。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「少人数グループでの算数の勉強は自分に合っている。」と答えた児童の割合	4: 85%以上 3: 80%以上 2: 75%以上 1: 75%未満	4	・週に1回の「特別の教科道徳」を中心として、学校におけるあらゆる教育活動を通して、継続的に道徳教育を推進している。また、道徳教育推進教師を講師とし定期的に伝達研修を行い、全教員が道徳について学ぶ機会を設定した。 ・今年度の算数の習熟度別学習は4学級6展開を実施することができた。昨年度と比べて、複数の教員が児童に関わり、個に応じたきめ細やかな指導が実現でき、確かな学力の育成を図ることができた。 ・本校では、体力向上のための「一校一学年一取組」で、長縄・マラソンを位置付けている。運動朝会や体育の授業内で実践を続け、健やかな児童を育てていく。 ・年3回の小中一貫教育の会では、連携校の雪谷中学校、池雪小学校と輪番制で授業公開を行っている。教職員がこどもたちの成長を9年間にわたり支える意識を高めるきっかけとなっている。 【回答児童数：236名】	A B C D	6 1 0 0	・算数少人数グループについては、それぞれの層での回答割合も見れるとよいかと思います。 ・算数補習でも、集中して粘り強く問題を解いていました。少人数での算数の学習は、とても力になると思います。また、小中で一貫となってこどもたちの成長を支えてくださっているのはありがたいです。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「自分の考えを授業の中で伝えている。」と答えた児童の割合	4: 70%以上 3: 65%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	4	・毎月1回、学習指導や生活指導、特別支援教育等、教員が学びたいことを中心に多方面からテーマを設定し、校内OJT研修を実施している。教員の指導力向上につながっている。 ・校内研究では、「児童の読みを深められる児童の育成～児童の問いと学習課題の整理から～」という研究主題で、年7本の授業研究を行った。国語科を中心に主体的・対話的で深い学びの視点に立った校内研究を推進することができた。 ・大田区研究推進校教育発表会を中心に、各種研究発表会へ参加し、指導力向上を目指して教員個々が研鑽を積んでいる。今後も継続することで、日々の授業改善に生かしていく。 【回答児童数：236名】	A B C D	4 3 0 0	・先生方のご尽力に感謝致します。「自分の考えを授業の中で伝えている」と答えた児童が70%以上というのは大変嬉しいことです。 ・コミュニケーション力だけでなく、各教科の理解度向上には、国語力が欠かせません。自分の考えを分かりやすく相手に伝えられるようになるため、引き続きの取り組みをお願いします。 ・「自分の考えを授業の中で伝えている」の回答が増えることはとても面白いと思います。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「自分にはよいところがある。」と答えた児童の割合	4: 85%以上 3: 80%以上 2: 75%以上 1: 75%未満	4	・6月・11月のふれあい月間において、全学年で学校生活調査と、3年生以上でQ—Uアンケートを実施した。結果から気になる児童については個別聞き取りを行い、情報の共有と共に、組織的な対応を実施した。アンケートは、保護者に返却して理解を図り、有効的な活用を心掛けた。 ・週に1回の生活指導夕会で情報を共有することができた。学年学級を超えて、全教職員における児童理解が深まった。 ・いじめの早期発見に努め、いじめ不登校対策委員会やいじめケース会議を発足し、組織的に迅速に対応した。 ・令和4年度に発足したほのぼのルームの体制が充実し、個別支援が円滑に進められている。 ・校内委員会を通し、サポートルーム教員やSCとの連携を図りながら、支援が必要な児童についての情報が共有できた。校内における特別支援教	A B C D	5 2 0 0	・児童一人一人に寄り添い、先生方全員が学年学級を超え、情報共有してくださることはありがたいです。 ・ほのぼのルームやサポートルーム等児童が校内で落ち着ける場所があるのも素晴らしいです。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	「学校は児童が安全・安心に学校生活を送るための環境をつくっている。」と回答した保護者の割合	4: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	4	・経営支援部が中心となり、校内の環境整備に取り組んでいる。 ・今年度12月で本校舎のトイレの洋式化が完了した。児童がより快適に、安心して過ごせる学習環境が整った。 ・年度初めの早い時期に、コース別下校訓練や保護者の引渡し訓練を行い、災害時における避難行動を指導している。また、起震車体験、煙体験、不審者侵入時における対応等、関係機関と連携しながら危険や災害に対する教育を計画的に行っている。 【保護者回答数：308名】	A B C D	5 2 0 0	・起震車や煙体験等の貴重な体験から多くを学んだと思います。携わってくださった方々に感謝致します。 ・個別目標7と併せて、会長を中心としたPTAの取り組み、おやじの会の活動をはじめ、ツドボラなど学校の活動に関わっていただける保護者の方々がとても多くいらっしゃることが学校全体の活気を高め、ひいてはこどもたち一人一人が個性をもって伸び伸びと成長していくことにつながっていくことと思います。地域とのつながりも含め、これからもよろしくお願いします。 ・環境整備への配慮はとてもありがたいです。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	「学校は地域の力を教育活動に生かしている。」と回答した保護者の割合	4: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	4	・今年度も、夏・冬のわくわくスクールや雪小お話会トムテによる読み聞かせ等、充実した内容で実施することができた。 ・学校公開や運動会の行事では、今年度も受付や参観者の交通整理、ライブ配信等、PTAや地域の協力を仰ぎながら円滑に実施することができた。 ・児童の通学時間の旗振りボランティアも継続して行っていただき充実している。今後も、学校、家庭、地域との連携を強化し、心も体も健やかな児童を育てていく。 ・スクールサポート雪小の方々に、家庭科の実習や校外学習のボランティア、地域人材と学校をつなぐサポートを依頼することができた。支援体制の充実が学習活動の充実につながった。 【保護者回答数：308名】	A B C D	6 1 0 0	・学校・家庭・地域が協力し、これからも雪谷小学校の児童が健やかに楽しい学校生活が送れるように精進してまいります。 ・これからもよろしくお願いします。 PTAと協力しつつ、ICT活用による情報共有も、特に地域連携の視点においてはありなのではないかと思います。 ・南雪谷自治会でもこどもたちや保護者とのつながりができる独自のイベントを行いたいと思っています。 ・展覧会もとても面白かったです。先生と作品についての意見交換も面白そうだと思いました。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。